

2014年6月6日

皆様

中京大学国際英語学部国際英語キャリア専攻

## 国際英語キャリア専攻開設記念講演会・シンポジウムについて(ご案内)

拝啓

初夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

中京大学国際英語学部国際英語キャリア専攻は、「言葉のプロフェッショナル」育成を目指して2014年4月に開設されました。実務翻訳者育成は本専攻における教育の大きな柱の一つであり、「国際言語管理アソシエイトプロフェッショナル」資格の取得を目指す授業の他、実務翻訳業界における「標準」として広く普及している翻訳支援ソフト「SDL TRADOS STUDIO 2014」の活用法を専門的に指導する授業、さらに、同ソフトを積極活用した翻訳実務の授業を開設いたしました。2015年度からの授業開始に向け、SDL社と緊密に連携しつつ準備を進めております。

海外において、実務翻訳を専門的に学修する専攻等の存在は珍しいものではなく、SDL社と提携する講座を設けている大学も多数ございますが、日本においては、中京大学国際英語キャリア専攻が初めてのケースであり、多くの関心を頂いております。

上記を踏まえ、この度別添の通り、講演会ならびにシンポジウムを開催する運びとなりました。実務翻訳を取り巻く最新事情から、これに関する産業界と教育界の連携、さらには真の国際人を育成する教育のあり方まで、多くの皆様にご関心頂ける内容となっております。皆様のご高覧を心よりお待ちしております。

敬具

# 中京大学国際英語学部

## 国際英語キャリア専攻開設記念講演会・シンポジウム

主催：中京大学国際英語学部国際英語キャリア専攻

協力：SDL ジャパン株式会社、中京大学文化科学研究所

開催日時：7月5日土曜日(13:00～16:30;開場 12:30)

会場：中京大学名古屋キャンパス ヤマテホール(センタービル 2 階)

(会場案内図：<http://www.chukyo-u.ac.jp/information/facility/g1.html>)

\* 駐車場はございません。会場へは公共交通機関をご利用ください。

進行

### 1. 専攻主任挨拶:13:00～13:10

ジェームズ・F・ダンジェロ(中京大学国際英語学部教授)

### 2. 基調講演:13:10～14:30

講師:佐藤 弦(SDL ジャパン株式会社 シニア・セールス・エグゼクティブ)

演題:実務翻訳教育の可能性

### 3. シンポジウム:14:45～16:30

テーマ:実務翻訳、国際言語管理と大学英語教育

パネリスト:

司会・講師:中川 直志(中京大学国際英語学部准教授)

演題:国際英語キャリア専攻と実務翻訳者育成

講師:吉川 寛(日本「アジア英語」学会会長)

演題:国際言語管理と国際英語

講師:ラルフ・A・シューマツハ(実務翻訳者、「語学工房 ここ・ログス」代表)

演題:「言葉のプロフェッショナル・プレイヤー」になるということ

講師:中村 泰洋(実務翻訳者、リンゴプロ翻訳サービス代表)

演題:実務翻訳者のキャリア選択肢

コメンテーター:佐藤弦(SDL 社シニア・セールス・エグゼクティブ)

## 講師紹介(順不同)

### ジェームズ・F・ダンジェロ (James F. D'Angelo)

- \* 中京大学国際英語学部教授、大学院国際英語学研究科国際英語学専攻主任、国際英語キャリア専攻主任、日本「アジア英語」学会理事
- \* 専門は国際英語学。MBA(ボストン大学)。国際英語キャリア専攻において、「Language Variation」、「Language and Culture」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、他を担当

### 佐藤 弦(さとう げん)

- \* SDL ジャパン株式会社 シニア・セールス・エグゼクティブ
- \* 1999 年から外資系翻訳会社で、翻訳業務、レビュー業務、部門管理、外部リソース管理、顧客へのコンサルタントなど、翻訳に関わる一連の業務を経験。2009 年に SDL ジャパンに入社してからは、企業への SDL 翻訳関連ツールの紹介を担当している。国際英語キャリア専攻が開設する翻訳支援ソフト(SDL Trados Studio) 関連の科目についても、アドバイザーという立場で関わっている。

### 中川 直志(なかがわ なおし)

- \* 中京大学国際英語学部准教授、日本英語学会広報委員
- \* 専門は理論言語学。Ph.D.(名古屋大学)。国際英語キャリア専攻において、「実用英語運用法」、「言語システム論」、「英語科教育法」、他を担当。

### 吉川 寛(よしかわ ひろし)

- \* 日本「アジア英語」学会会長、元中京大学大学院国際英語学研究科長、元国際英語学部長
- \* 専門は国際英語学。MA(イリノイ大学)。国際英語キャリア専攻において、「国際言語管理」「ビジネスとアジア英語」、他を担当。

### ラルフ・A・シューマツハ (Ralf A. Schumacher)

- \* 実務翻訳者、「語学工房 ここ・ログス」代表
- \* ドイツ ボン大学翻訳専攻卒(ディプロマ)。フリーランス翻訳者(「語学工房 ここ・ログス」代表)。JETプログラム(市政での国際交流員)、愛知万博ドイツ館での勤務の後、翻訳会社において翻訳者兼コーディネーターとして勤務。3年前にフリーランス翻訳者として独立。

### 中村 泰洋(なかむら やすひろ)

- \* 特許・実務翻訳者、合同会社リンゴプロ代表社員、元コングレ・インスティテュート産業翻訳プロフェッショナル養成科講師
- \* 翻訳会社勤務、フリーランス翻訳者を経て、2013年にリンゴプロ翻訳サービスを設立。得意分野はITとスポーツで、日本翻訳連盟(JTF)主催の<ほんやく検定>において、1986年の検定開始以来、3科目(「情報処理・英日」、「情報処理・日英」、「特許・日英」)にまたがって1級を保有する唯一の翻訳者。

## 基調講演・シンポジウム発表概要

### 【基調講演】

講師：佐藤 弦 (SDL ジャパン株式会社 シニア・セールス・エグゼクティブ)

演題：実務翻訳教育の可能性

概要：

企業活動がグローバル化していくなか、信念や専門技術を持った個人には多くの可能性が開かれてきています。特に実務翻訳の需要は今後もかなりのペースで大きくなるが見込まれており、日本を飛び出して世界で活躍できる人間を教育していくことが急務となっています。今回の基調講演では、講演者の経験をもとに、1) グローバリズムの現状、2) 実務翻訳の現場とソフトウェア、3) 将来に向けての課題、4) 実務翻訳教育の可能性、という四つのテーマを中心に据え、英語を学ぶことを志す大学生にどのような可能性が開かれており、中京大学の実務教育の取り組みがそれをどのようにサポートするのかということを考察します。

### 【シンポジウム概要】

「言葉のプロフェッショナル」育成を目指して開設された中京大学国際英語キャリア専攻は実務翻訳業界における「標準」として広く普及している翻訳支援ソフト「SDL TRADOS STUDIO 2014」の授業を日本で初めてカリキュラムに取り入れるなど、実務翻訳者育成に本格的に取り組んでいます。

グローバル化とともに、実務翻訳者の需要、そして翻訳者に対して期待される能力 (TRADOS 活用能力もその一つです。) は高まり続けていますが、日本の大学における実務翻訳者育成がそのような時代の変化に十分対応できていない部分も多々あります。

本シンポジウムにおいては、実務翻訳を取り巻く最新事情について理解を共有するとともに、産業界と教育界の連携、さらには真の国際人を育成する教育のあり方まで幅広く議論し、実務翻訳や教育における先駆的取組について、多くのご意見を賜りたいと思います。

### 【シンポジウム発表概要】

講師：中川 直志 (中京大学国際英語学部准教授)

演題：国際英語キャリア専攻と実務翻訳者育成

概要：

英文系に限らずどの学部でも英語教育を強力に推進する時代を迎え、即戦力を期待する社会の要請に応えられなくなった旧来の英文系学部は重要な岐路に立たされています。本発表では、国際英語キャリア専攻が、真の「言葉のプロフェッショナル」育成を志した経緯、そのような経緯にあって実務翻訳に注目した理由、志向とカリキュラムの整合性といった、専攻開設におけるいくつかの側面を振り返りながら、英文系学部の現代的役割について考察するとともに、大学として受け継いでいかなければならないもの、変革しなければならぬもの、等について問題提起します。

**講師：吉川 寛(日本「アジア英語」学会会長)**

**演題：国際言語管理と国際英語**

**概要：**

日本の企業は、世界のグローバル化のなかで、効果的な国際コミュニケーション戦略の策定が求められています。そのためには、現在の国際言語環境を適切に理解した上での対応力の育成が必要となります。そのような戦略的活動を「国際言語管理」と称し、その任務をつかさどる人材を「国際言語管理プロフェッショナル」と呼んでいますが、これは、企業の危機管理や機会創出にまでかかわる、グローバル化時代に必須な専門職であると言えます。国際英語キャリア専攻が提供する科目「国際言語管理」は、他の関連科目と協働して、そのような専門職の養成を目指しています。昨年度には、12名の「国際言語管理アソシエイトプロフェッショナル」資格取得者が受講者の中から誕生しています。

**講師：ラルフ・A・シューマツハ(実務翻訳者、「語学工房 ここ・ロゴス」代表)**

**演題：「言葉のプロフェッショナル・プレイヤー」になるということ**

**概要**

翻訳者となる道は様々ありますが、小学校時代以降の語学取得を出発点とし、留学等の外国滞在を経て、“走ってきた道”(=キャリア。語源：ラテン語の *correre* =「走る」)において収穫した実りや回り道の複雑性などについてお話したいと思います。

また、大学時代の翻訳専攻で習得したポイントや、翻訳者にとって必須あるいは有益と思われるスキル、性格、態度、理念、さらに、実務経験及び(メモリーソフト以外の)ツールについても発表します。

**講師：中村 泰洋(実務翻訳者、リンゴプロ翻訳サービス代表)**

**演題：実務翻訳者のキャリア選択肢**

**概要：**

実務翻訳という職業が持つ大きな特徴は、その自由度の高さです。幼少期からトレーニングを積む必要のあるアスリートや音楽家など比べ、参入の間口ははるかに広く、ライフスタイルやライフステージの変化に応じて比較的柔軟にキャリアルートを選択することができます。幅広いキャリア選択肢の提供を可能にするこの職業の特性と自由度の意味を明確にした上で、代表的なキャリア選択肢を紹介。さらには、それぞれの選択肢が持つ可能性と利点、ならびにリスクと欠点についても、自身が経験した苦労と楽しさを混じえて言及します。